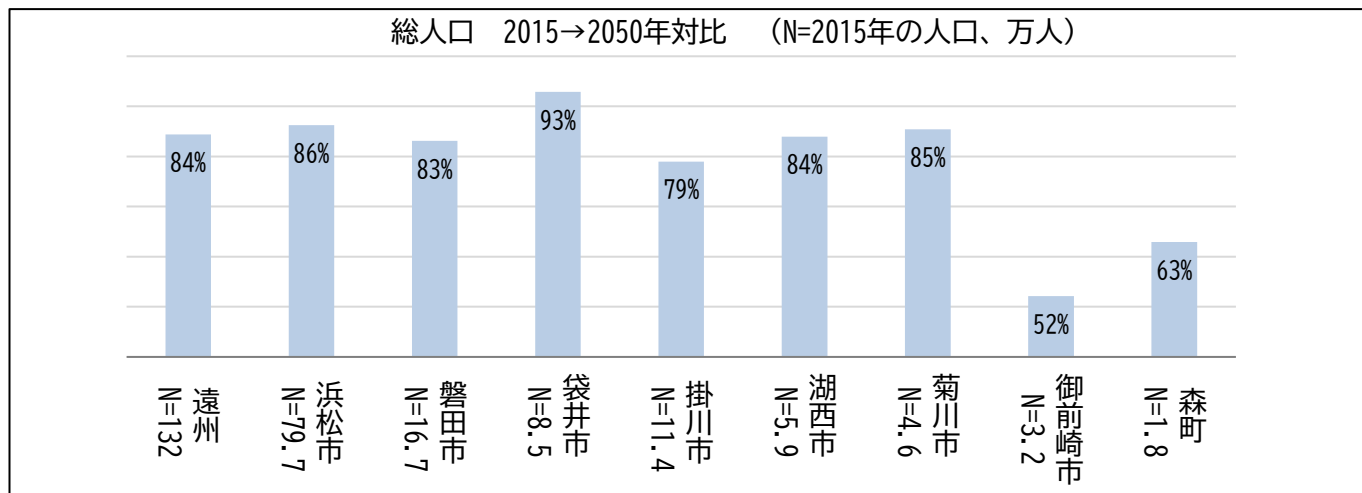


遠州地域の人口予測

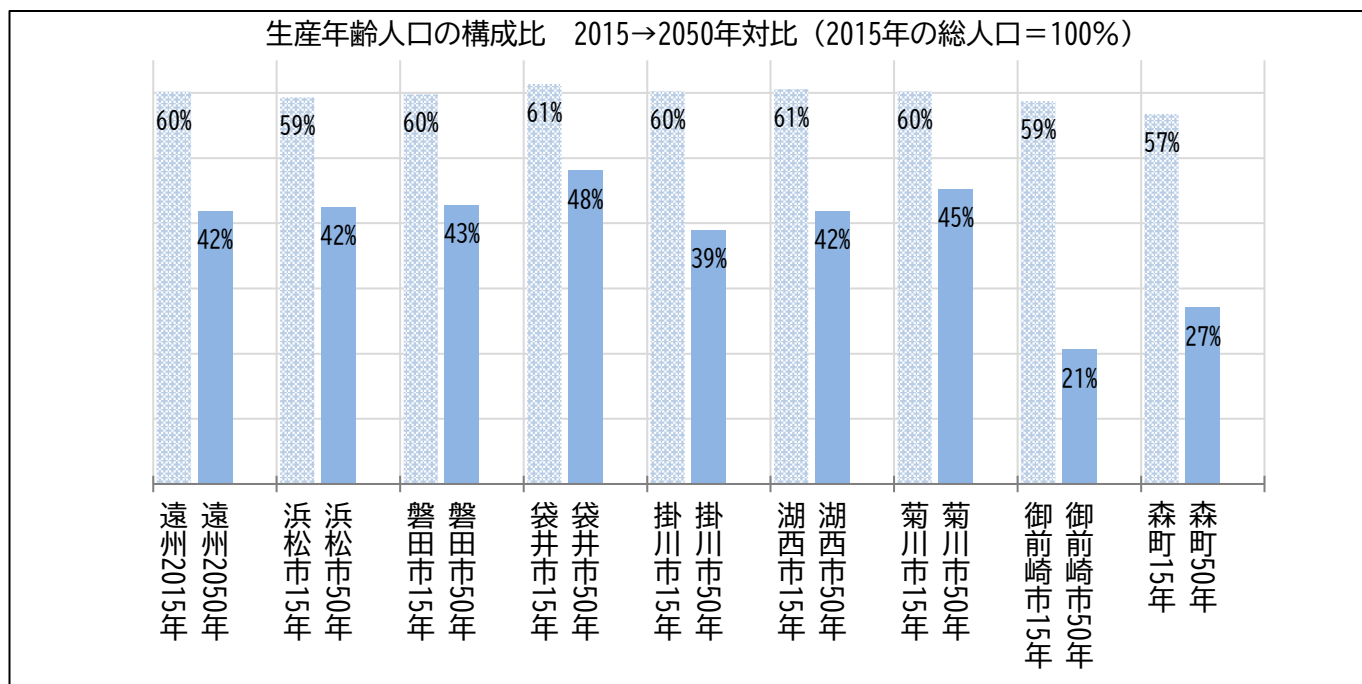
今回は未来カルテによる将来予測について取りまとめます。2015年の遠州地域の人口は132万人ですが、未来カルテによると、2050年は2015年比84%の111万人と予測されます。

遠州地域を市町別でみると、人口減少が緩やかなのは1番目が袋井市の93%、2番目が浜松市の86%となっています。一方、人口減少が著しいのは1番目が御前崎市の52%、2番目が森町の63%となっています。



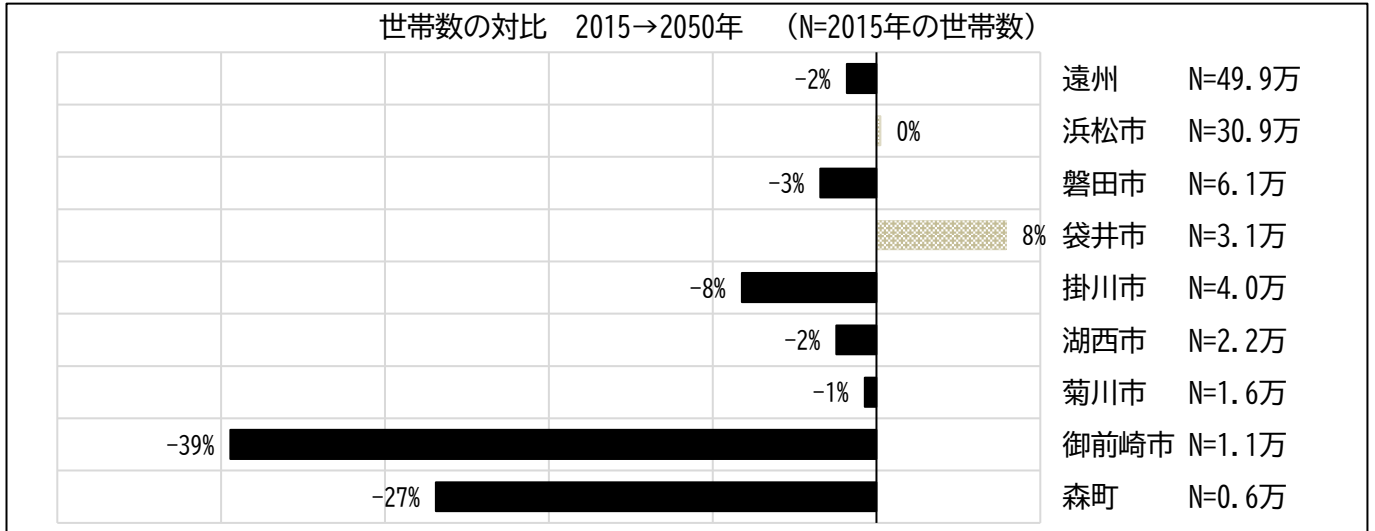
遠州地域の生産年齢人口(14~64歳)

次のグラフは2015年の総人口を100%とした時の2015年と2050年の生産年齢人口の構成比を表したものです。人口減少と出生数の減少、老年人口の増加に伴い、全市町で生産年齢人口およびその割合は下がることとなります。遠州地域の中で人口減少率が最も緩やかな袋井市は生産年齢人口の構成比も48%と相対的に最も高く、次いで菊川市の45%となっています。一方、御前崎市と森町は21%、27%となり、生産年齢人口が2015年比で半減することとなります。



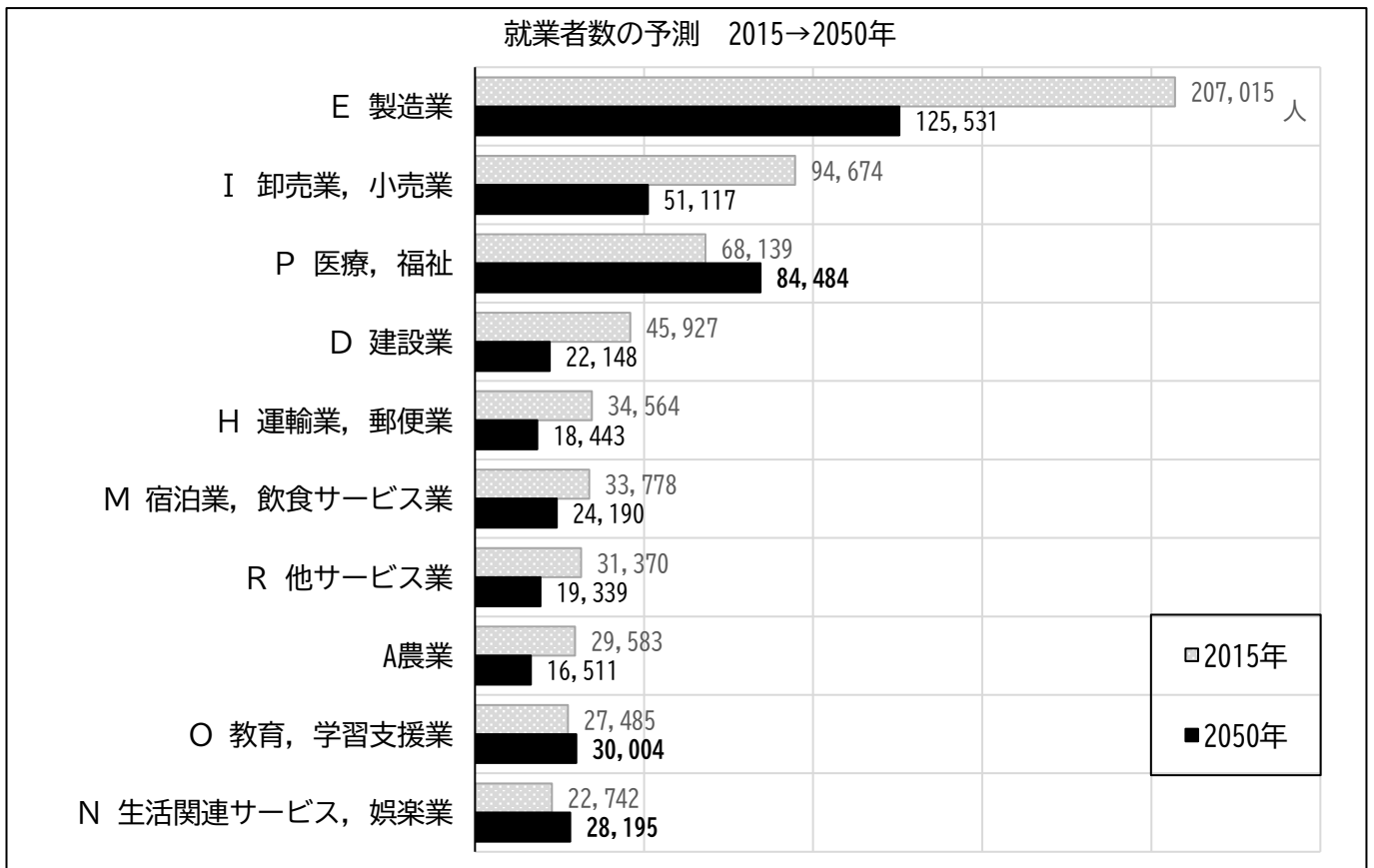
遠州地域における世帯数予測

2015年の世帯数を100%とした時の2050年の世帯数の増減率を表したグラフです。遠州地域における2050年の人口予測は16%の減少でしたが、世帯数は2%の減少にとどまります。市町別にみると袋井市においては8%の増加、浜松市も微増となっています。残りの市町では世帯数は減少しますが、人口減少の減少率と比べるといずれの市町も減少はゆるやかです。



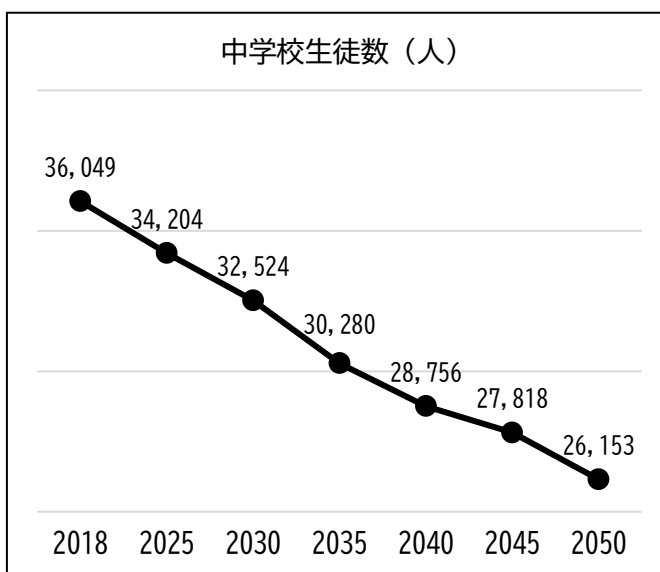
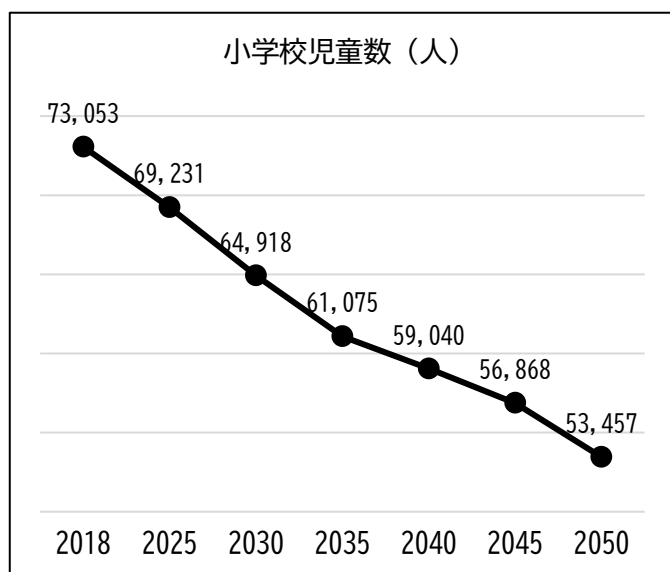
遠州地域における就業者数の予測

2015年の就業者の年代別構成比から2050年の産業別の就業者数を予測したものが次のグラフです。2015年において遠州地域で最も就業者数が多いのが製造業ですが、2015年の20.7万人が2050年には12.5万人にまで落ち込みます。産業別の就業者数で4番目に多い建設業においては2050年には半分以下となります。一方で医療福祉、教育学習支援、生活関連サービス娯楽については2015年よりも就業者数が増加する予測となっています。



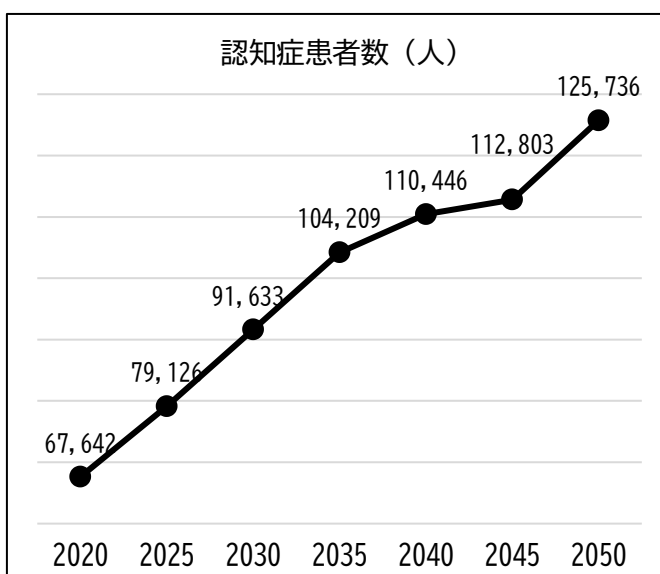
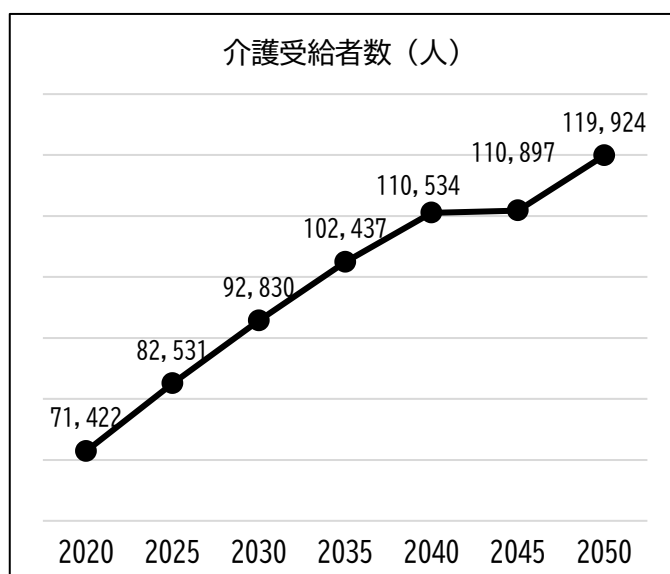
遠州地域における小学校、中学校生徒数の予測

遠州地域における小学校児童数および中学校生徒数は幼年人口の減少によりいずれも減少となります。2050年の生徒数を2018年と比較した場合、小学校児童数は73.2%に、中学校生徒数は72.5%に減少することとなります。



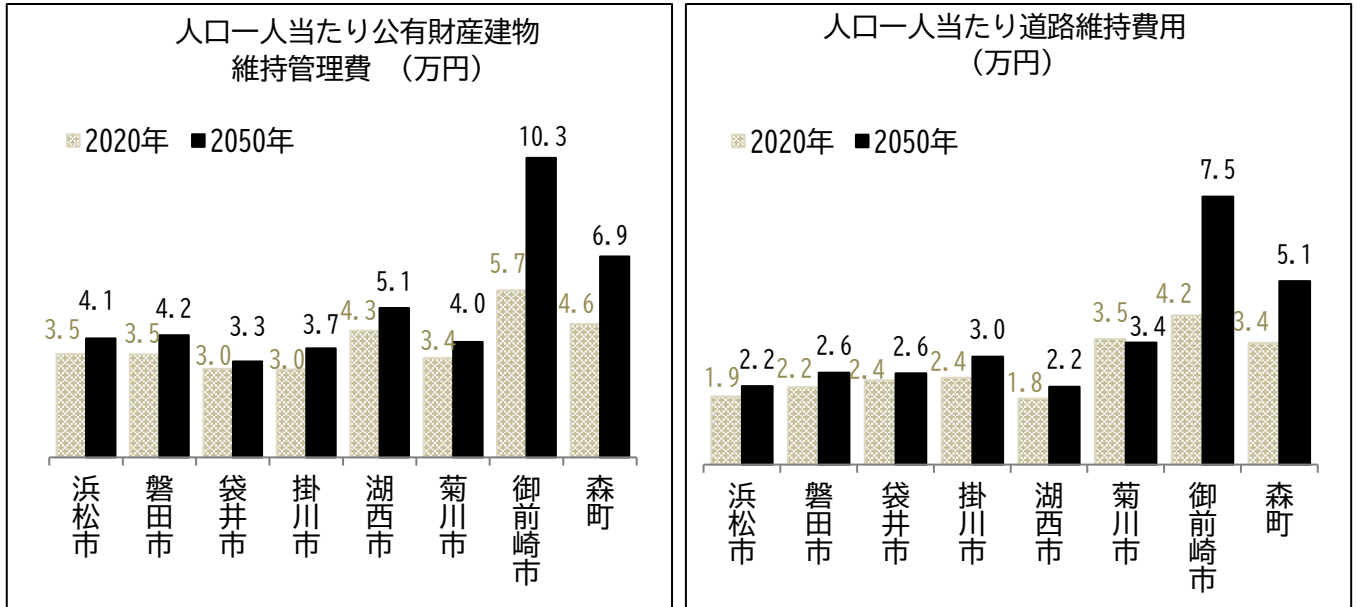
遠州地域における介護受給者数、認知症患者数の予測

遠州地域における介護受給者および認知症患者の人数は老年人口の増加によりいずれも増加となります。2050年の介護受給者および認知症患者の人数を2018年と比較した場合、介護受給者は167%に、認知症患者は185%に増加することとなります。



遠州地域における公有財産建物、道路維持費用の予測

2050年の人口一人当たりの公有財産建物および道路維持費用は、菊川市の道路維持費用を除く遠州の全市町で増加します。人口の減少率が高いほど一人当たりの維持負担が大きくなるため、人口減少が著しいと予測される御前崎市では他の市町よりも増加負担が大きくなります。市町により1.0倍から1.8倍の負担増が予想されます。



遠州地域における財政均衡の予測

2015年の歳入を100とした場合の「歳入 - 歳出」を指数化したのが次のグラフです。2015年の遠州地域は+4と財政は健全で、遠州地域のいずれの市町でもプラスとなっています。しかしながら2050年になると、全ての市町でマイナスとなります。いずれの市町も2050年のマイナスは2桁台となっているため、1割以上の歳出削減が必要となります。

